

## 研究の概要

### 1 研究主題

「自ら学び、運動の楽しさや喜びを味わえる体育学習を求めて」

～学習過程の工夫を通して～

### 2 主題設定の理由

#### (1) 体育科における課題

現代社会は、新しい知識・情報・技術が、政治・経済・文化をはじめ、社会のあらゆる領域の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であるといわれている。このように新しい価値観があふれ、世界のグローバル化が加速する社会において、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」が、より実効性のあるものとして発揮できるよう求められている。そのためには、児童が自らの知識・技能を生かし、新しい知識・技能を習得するとともに、他者と協働して課題を解決し、新たなものを創造し学んでいくことが重要である。近年、児童を取り巻く生活様式や環境が大きく変化し、体力の低下を招いている。また、積極的に運動する子としない子の二極化もその影響を大きく受けている。そのため、体力や運動能力の個人差の拡大が見られる。そこで、学校体育を通して児童が運動をする楽しさや喜びを味わえられるようにし、一人一人の運動に対する意欲や技能、体力を高めていくことが必要である。

学習指導要領においては、体育科の目標として、「心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。」と記されている。また、「仙台市健やかな体の育成プラン」では、3つの視点「健康に関する児童・教員・保護者等の意識の向上」「健康や体力向上に向けた効果的な取組の実践」「健康づくりを推進する体制の構築」が示されている。仙台市の現状と課題として、運動施設の制限や日常的に運動する機会の減少、体力や体育に対する意欲の低下等が懸念されている。このようなことから、児童が自らめあてを持って運動に取り組んだり、課題を解決したりして学んでいくこと、すべての運動領域において適切な運動経験をすることが求められている。加えて、どの児童にも運動の楽しさや喜びを味わわせることができるようにするとともに、一層の体力の向上を図ることが大切である。そのためにも、指導過程や指導方法、指導体制を工夫した体育学習の実践と運動の日常化を図るための環境整備が重要であると考ええる。

#### (2) これまでの研究から

本研究会では、昨年度から研究主題を「自ら学び、運動の楽しさや喜びを味わえる体育学習を求めて」と設定し、授業実践を重ねてきた。7つの地区がそれぞれに研究主題に迫るために、これまで整理してきた児童の体育学習における「わかること・できること」を踏まえ、児童の学びの要素を設定し、課題解決を図る学習過程や指導法について研究を深めてきた。児童の学びの要素に欠かせない手立てとして学習過程の工夫、学習カードの活用、教師の発問・言葉かけ・言語活動の工夫などを中心に有効であることが明らかになった。また、各地区の研究からは、体育の授業の一部分に注目するのではなく、教師の思いや児童の願いを踏まえ、教師の役割（ねらい、指導、評価…）や児童の学び（めあて、習得、課題解決、運動量…）、教材・教具の工夫などのバランスのとれた指導過程を大切にしてきたことが成果として見えてきた。

#### ・昨年度の研究で見えてきた主な課題

- 運動の特性へのふれさせ方（今持っている力で運動し学ぶ意欲をかきたてる）
- 児童のめあてや課題の持たせ方
- 体育学習における運動量の確保の仕方
- 運動の日常化

### 3 研究の目標

学習指導要領の趣旨を踏まえ、学習過程の工夫を通して、自ら学び、運動の楽しさや喜びを味わえる体育学習の在り方を探る。

#### 4 研究主題のとらえ方

##### ○「自ら学ぶ」姿とは

教師の指導により，児童一人一人またはグループが自ら意志決定した「めあて」に向かって取り組んでいる姿である。そして，自主的・自発的に多様な方法で課題を解決したり関連付けたりし，協力して運動に取り組む姿である。

##### ○「運動の楽しさや喜び」を味わっている姿とは

運動の特性にふれ，わかったりできたりする運動を通して，進んで何度も運動やその活動に取り組んでいる姿である。

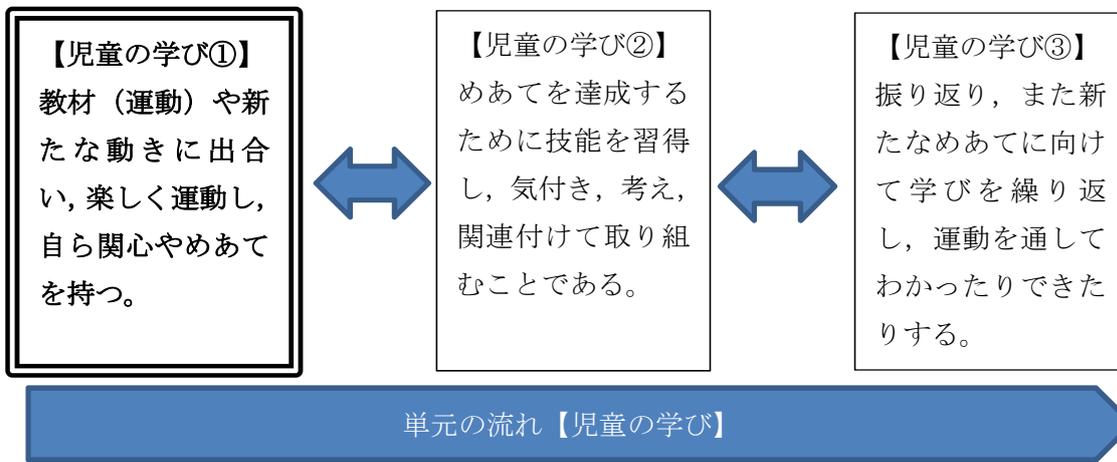
#### 5 研究の視点

### 課題解決に取り組ませる中で運動の楽しさや喜びを味わわせるための学習過程の工夫

児童の「今持っている力」や「高まった力」でどのように運動の特性にふれさせていくのか，運動との出会い（児童の学び①）に焦点を絞り，課題解決に取り組ませる学習過程を工夫し，検証する。また，児童の発達段階や学習内容の系統性を踏まえ，単元全体を見通した児童の学びの要素も整理する。

#### ○課題解決に取り組ませる学習過程とは

児童の学び①～③が単元を通して発展的に繰り返されていく一連の学習活動である。



【児童の学び①】における児童が教材（運動）と出会うとは，単元の導入時に教材（運動）にふれること，課題解決を図る学習過程の繰り返しを通して新たな動きにふれることをいう。ここでは，児童の「今持っている力」とこれから扱う教材（運動），「高まった力」と新たな動きが合致することで，これから扱う教材（運動）や新たな動きのおもしろさにふれることができるのではないかと考える。運動のおもしろさにふれたり運動を体感したりすることで教材（運動）への欲求や楽しさが増し，自ら関心やめあてを持つことにつながる。そして，児童が運動について自ら学び，運動の楽しさや喜びを味わえることになる。本研究では，児童が自ら学んでいく姿を引き出すために，運動の特性へのふれさせ方，教材（運動）や新たな動きへの出合わせ方を追究し，児童の学びの支えとなる部分を明らかにしたい。

【児童の学び①】【児童の学び②】【児童の学び③】には、学びを促し、学びを深める多様な要素が課題解決を図る学習過程にある。

(学びを深めさせるための要素)

導入の工夫、運動との出会い、試しの運動、体感、個人・グループ・クラスなどの学習形態、発達段階に応じたためあての持たせ方、学習カード、場の設定、ルールの工夫、教材・教具の工夫、技能の習得のさせ方、発問、気づき、見合い、振り返りなど

運動の特性や児童の実態に応じて、【児童の学び①～③】と「学びを深めさせるための要素」を絞り込み、「児童が何をどのように学ぶか」の充実を目指し、単元の課題解決に取り組みさせる学習過程を組み立てる。あわせて、運動の態度・情意面にも注目し、運動における心と体の関係性を児童に気付かせるなどして運動と保健学習との関連についても深められるようにしたい。

## 6 研究の方法

- ・ 地区毎の研究を主体とする。各地区は、他地区とのバランスを踏まえて運動領域を選択し、研究の視点に沿って、授業実践や授業参観を通して研究を進める。
- ・ 研究の成果として、研究集録に単元計画（課題解決に取り組みさせる学習過程）をまとめ、次年度につなげる。
- ・ 地区研究では、複数学年での授業実践を通して運動領域の系統性を明らかにし、研究主題に迫る。
- ・ 6月の教科研究会では、地区毎に昨年度の研究の成果と課題を踏まえ、今年度の研究の方向性を決定する。
- ・ 7月の仙台市小学校教育課程研究協議会では、学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程の編成及び実践についての研究協議を通し、体育部員の実践的指導力の向上を図る。  
(今年度の発表は、3地区とする。)
- ・ 10月の教科研究会では、授業研究を行い、事後検討会を通して、各地区の研究を深める。
- ・ 2月の教科研究会では、研究集録をもとに、各地区の成果と課題について確認し、次年度の研究に生かす。  
(今年度発表は、4・5地区とする。)
- ・ 夏休み等を活用し、多様な研修会（実技研修、模擬授業、先輩の授業に学ぶなど）を行い、教師の指導力向上に努める。地区内での積極的な参加を呼びかけると共に、地区を越えた参加も可能になるよう、7月の研究推進部会で共有化を図る。
- ・ 日常の体育学習の充実を図るため、ホームページ等を積極的に活用し、研究内容についての情報の共有化を進めると共に積極的な情報発信に努める。また、これまで作成してきた研究集録・実践記録集をより分かりやすくするための工夫について検討し、内容の精選を図る。
  - ① 研究集録では、各地区に課題解決に取り組みさせる学習過程のページを設定する。
  - ② 実践記録集では、研究の視点にできるだけ沿った共通の枠組みを設定する。

7 研究実践計画

期 日	研 究 内 容	会 議 名	会 場
5月18日(月)	平成27年度の研究について	研究推進部会①	原町小学校
5月28日(木)	平成27年度事業計画(研究の概要)	常任委員会①	教育センター
6月17日(水)	平成27年度事業計画(研究の概要) 地区研究の方向性	教科全体会①	原町小学校
6月～10月	実態把握・教材研究・授業実践・実技 研修等	地区体育主任者会	各会場
7月23日(木)	①研究主題に迫るための各地区の手立 てについて ②教育課程研究協議会の確認 ③研究集録について ④指導案雛形について ⑤各地区の研修会について	研究推進部会② (地区長・研究副班長も参 加)	茂庭台小学校
7月27日(月)	教育課程研究協議会 ※発表地区→ <b>3地区</b>	教育課程研究協議会	教育センター
10月 7日(水)	①10月28日(水)の教科全体会の計 画確認と情報交換 ・領域, 手立て, 授業者, 会場, 日 程, 指導助言者, 講評など ・地区研究の状況報告, 話合い ※各地区研究推進班長は, 8月28 日(金)までに研究推進副部長(斎 藤先生・富沢小)へ報告  ②研究集録・実践記録集の編集方針・ 形式, ページわりなど ③情報交換	研究推進部会③	茂庭台小学校
10月28日(水)	授業研究・授業検討会等	教科全体会②	各会場
11月17日(火)	研究のまとめ方について	常任委員会②	教育センター
12月 4日(金)	①2月3日(水)の教科全体会の計画 確認と情報交換 ※今年度の発表は, 4, 5地区 ②係分担について ③研究集録について ※研究集録原稿締切日 →12月21日(月) ④実践記録集の編集方法等の確認 ⑤情報交換	研究推進部会④	茂庭台小学校
1月14日(木)	教科研究会③(研究発表会)の確認	常任委員会③	原町小学校
1月26日(火)	「実践記録集」編集	「実践記録集」編集会議	原町小学校
2月 3日(水)	研究報告( <b>4・5地区</b> )	教科研究会③	原町小学校

## 8 地区研究の概要

地区	研究領域	研究主題に迫るための手立て
1	○ゲーム・ボールゲーム ○ゲーム・ベースボール型ゲーム ○ボール運動・ベースボール型	①動きを体感させる学習過程の工夫 ②場の設定とルールの工夫
2	○走・跳の運動遊び(走の運動遊び) ○走・跳の運動(小型ハードル走) ○陸上運動(ハードル走)	①自分に合った練習方法や場を選んで、進んで運動するための工夫 ②運動の特性を存分に味わうための工夫
3	○体づくり運動	①運動の楽しさや喜びを味わわせるための学習過程の工夫 ②自分のめあてと学びの見通しがわかる学習カードの工夫 ③運動の特性に触れさせ、楽しさを味わわせるための工夫
4	○ゲーム・ボールゲーム ○ゲーム・ゴール型ゲーム ○ボール運動・ゴール型	①運動の特性を生かした単元計画の作成 ②楽しさや喜びを味わわせる教材の開発 ③教材(運動)との出会いの工夫
5	○表現リズム遊び ○表現運動	①かかわり合いを意識させた学習過程の工夫 ②動きの変化を引き出す言葉掛けの工夫 ③児童が見通しを持って活動できる学習カードの工夫
6	○ゲーム・ボールゲーム ○ゲーム・ネット型ゲーム ○ボール運動・ネット型	①自らあこがれや目標を持つことができる教材との出合わせ方の工夫 ②運動の特性にふれる時間の確保 ③児童の学びを助ける学習カードの作成
7	○器械・器具を使つての運動遊び (マットを使った運動遊び) ○器械運動(マット運動)	①運動の楽しさや喜びを味わえる場面設定の工夫 ②技能を習得するための補助運動の工夫 ③自ら学ぶ効果的な学習振り返りカードの工夫

## 9 研究の考察

### (1) 地区研究の取組から見えてきたこと

前年度、明らかになった「児童の学びの要素」を踏まえて、今年度は課題解決に取り組む学習過程を児童の視点から3つの段階に分けた。そして、その第一段階である児童が教材(運動)と出会う部分に焦点を当て、研究を進めてきた。各地区の研究の成果をまとめてみると、教材(運動)との出合わせ方には様々な手立てがあることが明らかになってきた。また、体育の授業を構成する上で、運動の特性を踏まえたできるようになるための手立てだけでなく、強い動機付けや意欲付けを行うことで児童が自ら体育を学んでいく姿を引き出せることが分かった。

各地区の共通する部分に着目し、成果と課題についてまとめ、研究の考察とする。

各地区の課題解決に取り組ませる中で運動の楽しさや喜びを味わわせるための学習過程の工夫と運動（教材）との出会わせ方

【1地区 6年ソフトボール～技能を高めてホームインゲームをしよう～】		
知ろう	高めよう	工夫しよう
○投げたり捕ったりするゲームとの出会い ○打ち方との出会い	○体操の動きを生かすバットで打つ出会い ○初めのルールとの出会い→新たなルールとの出会い	

【2地区 2年 走の運動遊び（ハードルリレー）～楽しくハードル！リレーで勝負！～】		
出会い	楽しく走り越えよう	勝負しよう
【出会い】 ○折り返しリレーをパワーアップさせよう。	【出会い】 ○いろいろなハードルを走り越えよう。	【出会い】 ○ハードルを組み合わせで速く走り越えられるコースをつくろう。

【3地区 6年 体づくり運動～いろいろな動きができるようになろう～】		
体ほぐし	体力を高めよう	体力をもっと高めよう
こんな動きできるかな →出会い →友達と一緒に	こんな動きできるかな →出会い→難しい→工夫してやってみよう→できた！ →新たな出会い	振り返ろう→自分の高めたい体力→出会い→もう一度やりたい→運動の場の工夫→動きの工夫

【4地区 5年 ハーフバスケットボール～シュートする楽しさを味わわせる指導の工夫～】		
出会い	ひろげる	ふかめる
○試しのゲーム 4対2のミニゲーム	○ミニゲーム（空いたスペースを使う力で楽しむ） 2対1のミニゲーム→3対2のミニゲーム ○子供たちの欲求に合わせたルール作りや行い方の工夫	

【5地区 3年 表現運動 ～一日の生活～】		
やってみる	創る	見る
心と体をほぐす準備運動（楽しい雰囲気づくり）→やってみる（多様な動きを引き出す言葉がけ、良い動きの児童の称賛）→創る（動きながらかわりながら）→見る（良さを見つける）→学習カード（変容の見取り）		

【6地区 6年 プレールボール～アタックプレールボールをしよう～】		
プレールボールをやってみよう！	チームにあった練習をしよう！	ゲームを楽しもう！
目標を持つことができる 教材との出会い 「より楽しむためには？」	アタックプレールとの出会い 「みんなでルールを変えて楽しもう！どんなルールにする？」	児童の学びを助ける学習 カードのくふう 「自分たちのチームは、 どんな作戦にする？」

【7地区 6年 マット運動～友達と一緒に技を高めよう～】		
技の練習（個人・グループ）	組み合わせ技の練習（グループ活動）	
新しい運動 との出会い	○できるにつながる補助運動（体づくり運動） ○どの児童も楽しく学び、技能を習得できるコース 設定	できるように なった自分と の出会い

## 【成果】

各地区の学習過程を整理することで、運動（教材）との出合わせ方について3つに分類することができた。

### 【 出合わせ方□ 】 単元導入の出合わせ方

児童の実態や思いを踏まえた出会いを重視したことにより、体育の授業の期待感を高めたり運動の楽しさに触れたりして、もっとやってみようという運動の意欲を向上させることができた。意欲だけでなく、今自分の持っている力でできる運動に出会うことで安心して運動に挑戦し、運動技能の習得につなげることもできた。

#### ①児童の実態を踏まえた出会い

児童の発達段階と児童の今持っている力を踏まえて、できる運動や挑戦できる運動を見たりやってみたりするという出合わせ方があることが分かった。運動領域に応じて、活動形態と運動の行い方、場の設定を組み合わせることで多様な運動（教材）との出会いをもたらすことができた。

【例 見てみる、真似してみる、動いてみる、試してみる、ゲームをしてみる、競争してみるなど】

#### ②児童の思いを踏まえた出会い

これまでの運動経験を基に、児童の欲求を大切にしたい運動を用意すること、追究心をかき立てる問いを吟味すること、心と体をほぐすことなど児童の思いに沿った運動（教材）との出合わせ方があることがわかった。

【前の学年でやったことを振り返る、より楽しくする問い掛け、目標を持たせる投げ掛け、心をほぐす準備運動など】

【 出合わせ方□ 】 特性にふれさせる工夫に関して

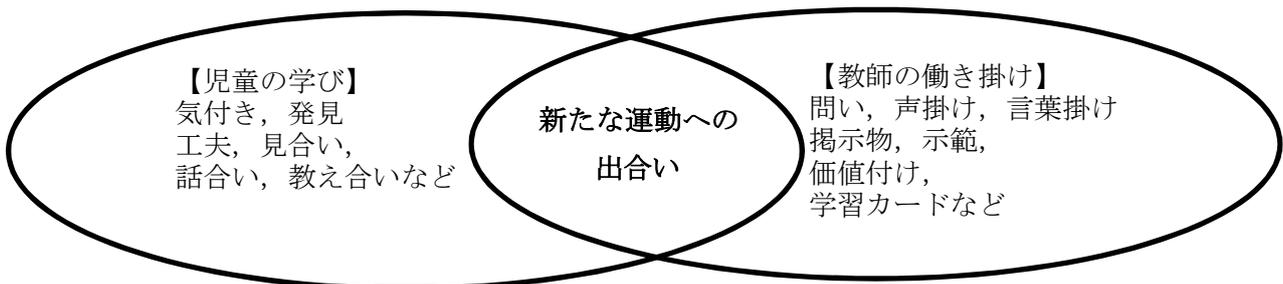
運動の特性にふれられるような様々な手立てが各地区で講じられ、児童が運動の楽しさを味わえたという成果が多く見られた。児童が運動の楽しさを味わえたということは、児童の今持っている力でできる運動に合致していたということであり、運動（教材）への出合わせ方の一つとして、特性にふれさせる工夫ととらえることできた。

各地区の学習過程からは、運動領域に沿って運動の特性について十分に吟味しており、運動領域に応じて、段階を踏んだり往還したりして運動に出合わせたことにより、運動の特性にふれさせることができた。

児童が運動の楽しさにふれられるように、①動きを体感させる運動を補助運動として取り入れる、②易しい練習の場やゲームの人数を設定する。③分かりやすいルールや易しいルールにする、などの工夫が見られた。

【 出合わせ方□ 】 新たな動きへの出合わせ方

各地区の段階的・往還的な学習過程に連動して、多様な手立てが新たな動きへ出合わせていることが下記の図に表すことができた。児童の学びと教師の働き掛けが相互に関わりながら新たな運動への出会いにつながるが見えてきた。



【課題】

運動への出合わせ方を工夫したことで児童の運動に対する動機・意欲を高め、楽しさを味わわせることができたが、児童が自分で工夫して運動する道筋については課題がある。自分で工夫して運動するとはどのような姿なのか。その姿を支える児童一人一人の持つめあてとはどのようなものであればよいのか。教材（運動）との出会った次の段階の部分について考えていきたい。

(2) 研究全体をとおして

今年度は、授業における運動（教材）との出会いについて研究を深めてきた。児童にどう運動（教材）と出合わせればよいのか、児童に運動の楽しさを味わわせる多くの成果が各地区の研究から挙げられ、児童一人一人を大切に授業づくりがなされてきたことを改めて感じる事ができた。また、これまで各地区が積み上げてきた体育における有効な多様な手立て（学びの要素）が活用されており、手立ての蓄積と研究の充実（多様な授業研修、組織的な研究体制など）がなされている。研究主題2年目となり、次年度に向けてさらに研究を推進し、仙台市全体の体育の充実に貢献できるようにしていきたい。